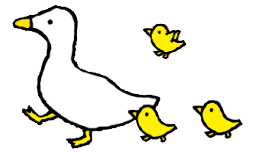




2月8日（月）開催 新米ママをサポートしたいママへ贈る 「ドリームミーティング ～発足と運営の極意～」情報シート



団体名	母力向上委員会	子育て応援サークル tasuki	子育て応援サークル いちご	静岡県東部子育て情報サイト&ママコミュニティ 「ママとね♡」
活動エリア	富士宮・富士	沼津市	主に沼津・清水町	静岡県東部
現在のおおよそのメンバー数	40名	6名 準10名	会員数こども137名 スタッフ 15名	40名
立ち上げ年	2008年10月	2011年12月	2007年	2014年2月
活動の理念、コンセプト	妊娠・出産・子育てをプラスにする生き方の提案	家庭だけでなく、地域や企業とも関わりあいを持ちながら、みんなが『tasuki』でつながるような子育ての環境づくりを目指しています。	一期一会、出合いを大切に、子育て中の親子が心も体も元気になれる居場所づくりのお手伝い。 「あったらいいな」に応える活動	ママとママの繋がり、ママと地域のつながりを促進 ママの成長をサポート
活動のメインターゲット	妊娠期～子育てスタート期の女性	未就園児の子どもを持つママたち	子育て中の親子	未就園児（～園児）を子育て中の母親 特に、初めて子育てする、または、転入してきたママ
立ち上げ時のメンバー数	2名	3名	10名	2名
立ち上げようと思ったきっかけ	地域の出産施設の減少により、妊娠・出産に対する不安が増大していたこと、産後の辛さは自分だけでなく、他の母にも共通するものだとわかったことで出来ることをしたいと思った。	子育て1年目を過ごした新潟で、ママ達を作るフリーベーパーを手に取り、ママのパワーを感じ、私自身がすごく勇気をもたらしたのがきっかけ。ママ達が子育て中に感じる悩みや喜びと一緒に分かち合えるような心のつながりがあったら・・・そんな思いで立ち上げました。	育児の悩みや不安、喜びをを共感し合えるような場所、子どもと一緒に楽しめる場所がほしかった。	立ち上げた2名は出産後に三島に来た転入組。子育てに関する地域情報がweb上に乏しく、なかなか地域とつながることができずに孤独育児を経験したことより、自分たちのような子育てで難民を減らすべく地域に子育て情報サイトを立ち上げようと企画。
立ち上げに関して苦労したこと	特になし。勢いだったので。	仲間集め	金銭的な運営	サイトの認知度の向上(野田) 運営費をどう捻出するか(中島)
立ち上げに際し相談した人	小野美智代さん、「らぼーる」高部さん、番内助産師	新潟県でフリーベーパーを発行していたHAPPY バランスという団体の代表の方。	友人	みしまプレイセンター時代の友人たち、地域の子育て支援事業領域の大先輩
定期的な活動	Umidas Café ・happyお産アカデミー・Umidas+発行・ファミリーめっせ	防災講座(年4回)・ママ防災部月一回	季節の交流イベント・リトミック・ベビマ・ママ向け講座・交流カフェ	ママとねサロン(新規参加の方がメイン)、詩集トツキトウカ発行事業とそれに付随したイベント(撮影会等)
不定期の活動	お宝市・ママフリマ・講座&ワークショップ各種・子育てチーム交流会	xChange	親子食育教室・自然体験教室・パンマルシェなどのまちづくりイベント	ママの学びや健康に関する事業(補助金)、出張託児事業
今、運営に関して困っていること、悩んでいること	法人化手続き中で大変です。運営資金確保に苦戦しています。	打ち合わせやミーティング場所の確保	スケジュール管理	子育てをしながらの活動時間の確保 マンパワーの充実 運営費の捻出 新規メンバーの獲得
運営に関して特に工夫していること	参加者からスタッフへの循環サイクル	連絡は、LINEなどを使って、端的に！	コミュニケーション	みな多忙なため、多くのことはオンラインで話し合い決定していく。但し、face-to-faceは大事と考えているため月1リーダー会を設けている。
新メンバーの募集方法	現在は特に決まったものは無し。新規事業や人で不足時などに都度参加者に声をかけている。	ブログやFacebookでの募集・防災講座での呼びかけ	会員：パンフレットや口コミ スタッフ：希望者やスカウト	口コミ サロン等イベントに来た方で興味のある方
これからやっていこうと思っている活動	拠点を持つでの常時展開	子育て情報誌の再発行	地域や企業、団体などいろいろな人との連携	スタッフ同士の交流の機会をもう少し増やしていきたい(まずはママとねに興味をもってくれたママさん同士が繋がりがやすい仕組みを考えたい)
活動を通して目指しているゴール(目指すところ)	解散！(その手前に妊娠～自立までの総合支援可能な環境の構築があります。社会が成熟したら解散！)		生き生きと笑顔で自信をもって活動していること	ママとママ、ママと地域が、共に育ち合える環境をつくる